岩手農大同窓会会報

第21号
平成26年
3月7日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会　岩手県胆沢郡金ケ崎町蟹子沢14　TEL 0197－43－2211

同窓生も地域農業の原動力に

岩手県立農業大学校同窓会
会長　及川　誠

早春の候、農大同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝にて、県内各地でご活躍のこととお喜び申し上げます。昨年４月の同窓会総会で紫波支部出身の阿部時男前会長の後任をお引き受けしたものの、まさに「光陰矢のごとし」であります。何をしたらよいのか考えているうちに、もうじき一年経過します。

２月８日、私は、東京におりましたが、関東地方は45年ぶりの大雪でありました。東日本大震災以来、自然界の異変はところ構わず発生し、想定外の大被害を与えています。雨、風に「今まで経験したことがない」と言う形容詞が付くことが多くなりました。天気予報、警報に「身の安全を確保してください」と言う、聞き慣れない言葉も頻繁になってきました。我々農業者はこのような自然界を相手に食料を生産する職業であります。このような異常気象の発生に加え、国内では農業従事者の高齢化、耕作放棄地の拡大、担い手の不足などの危機的な状況となっており、一方ではTPP交渉が進んでおり、まさに、日本農業は混迷を深めております。

そこで政府は、農業を足腰の強い産業にしていくための政策と農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るための政策を車の両輪とし、その課題解決のため日本農政の大転換ともいえる４つの大きな改革案を提示したのであります。これまで、日本農業はピンチの連続でありましたが、この４つの改革には農業を志すものにとって大きなチャンスとなるのではないでしょうか。

改革の一つである「農地中間管理機構の創設」は、農業ができなくなった方は農地を機構に預け、規模拡大したい農業者がまとまりのある形で農地を借り受けることができる制度であり、また、「経営所得安定対策の見直し」は、集落営農組織や意欲のある農業者は誰でも参加できる制度となるほか、「水田フル活用と米政策の見直し」では、転作できない水田などを利用した飼料米等の生産による水田のフル活用を誘導し、需要に応じた主食用米の生産が行われる環境整備をすることとしており、さらに、「日本型直接支払制度」では、農業の多面的機能の維持・発揮のため農地法面の草刈、水路の泥上げ、農道の補修など共同活動に支援することとしております。この４つの改革は、水田農業と農村集落の維持発展のための政策が盛り込まれております。

現在、八方塞がりの農業・農村を、先の見える農業・農村に転換する大きなチャンスのような気がします。また、この改革の対象となる認定農業者のハードルが低くなりました。今回の農業大学校の卒業生は勿論のこと、同窓生の皆さんにおかれましても、各地の集落営農ビジョンにしたがって、認定農業者や中核農業者となって、地域農業を構築する原動力になってほしいものです。

同窓会報に寄せて
～ この一年を振り返って ～

岩手県立農業大学校
校長　千　葉　泰　弘

同窓会員の皆様におかれては、ご健勝で、ご活躍のことと思います。

本校の教育活動の様々な場面で、同窓会員の皆様のご協力を頂いておりますことに、改めて感謝申し上げます。この一年間を振り返っても、6月の「先輩からのメッセージ」では卒業後２～３年の５人に農大生時代の進路実現に向けた取組や現在の状況について話してもらいました。また、11月の農業創造シンポジウムでは、ともに本校OBの澤口聡氏と嵯峨裕紀氏から研修生を受け入れ新規就農の手助けをしながらの野菜栽培や規模拡大目標を前倒しで実現している畜産経営の状況など、それぞれの農業経営の紹介がありました。厳しいと言われて久しい農業情勢の中にあっても、地に足がついた営農を展開している先輩の姿に在校生は大いに触発されたようです。

他にも、半月間泊まり込みで行う農家派遣実習や先進的な農業経営を学ぶ事例研究の受入農家として多くの同窓会員にお世話になっています。いずれも農業の実際を知るまたとない機会であり、本校の教育活動に欠くことのできない重要な取組と考えています。

早いもので、今年も間もなく卒業式を迎える時期となりました。今年度の卒業生は本科68名、研究科２名、併せて70名です。進路決定は順調で、ほとんどの学生は昨年末までの早い時期に卒業後の進路を決定しています。そのうち就農（自家就農、１～２年の研修後就農及び農業法人等への雇用就農の合計）は46％と昨年に引き続き高率で、この数字は一昨年までに比べ10％以上も高いものです。農業団体や農業関連企業に進む者を併せるとほとんどの学生が本校で学んだ農業を活かす進路を選択しています。今後、様々な場面で同窓会員の皆様の力をお借りすることと思いますので、よろしくお願いします。

また、今年度は全国プロジェクト発表での優良賞入賞や全国的な論文・作文コンクールでの奨励賞受賞など、本校学生の活躍が目立つ年でした。またカリフォルニア大学デービス校での海外農業研修25周年、本館周辺への金ケ崎町から寄贈を受けた桜苗木の植栽、１農区に移転した新水田圃場での水稲栽培の開始などの動きがありました。110haの牧草地の除染も順調に進み、来年度で終了する予定です。引き続き、圃場をはじめとする教育基盤の充実や大学校内の環境整備に努めていく考えです。

終わりに、同窓会員の皆様の益々のご多幸をお祈りするとともに、歴史ある六原の地で農業を志す若者が勉学や実習に励む岩手農大の教育活動に更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

―新たな旅立ちにあたり―
今春卒業し、同窓生の仲間入りする学生からの寄稿

▶ＪＡに就職して

野菜経営科２年
小志戸前達也

私はこれからＪＡ新いわてに就職することが決まっています。ＪＡ新いわてでは営農指導をやっていきたいと考えています。今まで私が学んだ知識を地域の農業に役立てていきたいという気持ちがあります。また、今まで生まれ育った地域に恩返しができればという思いもあります。地域農業に貢献できるよう、今まで学んだことに加え今後もさらに農業について学んでいきたいと思います。

▶就職にあたっての決意

野菜経営科２年
棟　方　孔　明

今年の３月に岩手県立農業大学校を卒業した後は、農業生産法人に就職し、トマトの栽培と販売の仕事をします。非農家ですがこの学校に入学し、野菜の知識を学ぶことができ、無事農業関係の仕事に就くことができました。仕事のことでは不安なこともありますが、この農業大学校を卒業する自分を信じて一生懸命働き、いつかは自立して農業をやりたいと思っています。

▶農大で学んだことを生かして

酪農経営科２年
阿部美沙紀

私は高校時代、果樹を学んでいましたが、農業大学校では全く別の酪農経営科を希望し入学することができました。酪農の専門的な講義専攻実習では実際に学ぶことも多かったです。また、農業大学校は全寮制で資格取得に専念できたことが何よりも良かったです。今まであまり関心がなかった友好関係も築くことができました。これまで何度も人づきあいに悩んで辛い思いもしてきた私にとって寮生活は貴重な経験でした。

私は４月から、キロサ肉畜センターに就職が決まっています。ここでは、今まで経験してきた、大型機械の運転や牛の世話などの技術を十分に発揮し誰からも信頼され、会社の発展に役立つ人になりたいと思います。

▶ＪＡ花巻に就職して

酪農経営科２年
工藤真央

私は、４月からJA花巻で働くことになりました。農業大学校の酪農経営科で過ごした２年間は長いようですが、朝晩の搾乳当番実習や事例研修、卒業研究、家畜人工授精師の免許取得などであっという間に過ぎました。

就職先の農協では、家畜人工授精師の資格を活かせる営農指導のほうに配属を希望していますが、どこに配属になっても、地域の農家の話をよく聞きながら農家の役に立ちたいと考えています。人工授精師には女性は少ないそうですが、牛に負けない体力を養い、技術を向上するように努めていきたいと思います。

地域の先輩の皆様、よろしくお願いいたします。

▶私の将来

肉畜経営科２年
堂屋　尭

私は、ＪＡ新いわてに人工授精師として採用いただきました。最初、自家就農することを決めていましたが、我が家の現状の規模では、労働力は十分でした。農業大学校入学当時は、何も考えずに就農すればいいとばかり思っていたため今後どうするか悩みました。そんな時、ＪＡ新いわてから人工授精師の求人があり、自分が持つ資格を活かすことができる職業であり、お世話になっている農協でもあったので、迷わず応募しました。採用になったからには、牛の人工授精技術を磨き、畜産農家のために受胎率が少しでも高くなるよう日々精進していきます。

▶よろしくお願いします！

肉畜経営科２年
山崎　真

岩手県立農業大学校卒業後、私は軽米町の実家で就農します。実家では、繁殖和牛と雨よけホウレン草の経営ですが、その経営を引き継ぎ自立できるよう頑張ります。

まず、繁殖和牛部門では２つ目標があります。一つは、牛舎の改修を行い、作業がしやすく働く人にとっても牛にとっても快適な牛舎環境を作り、現在の黒毛和種の飼育頭数20頭を10年後には２倍の約40頭まで増やし繁殖経営を確立することです。二つ目は、農業大学校在学中に取得した削蹄師と人工授精師の免許を十分活かして地域の畜産振興に少しでも貢献することです。

地域の担い手として精いっぱい頑張りますので、地域の同窓生の皆様よろしくお願いいたします。

▶野菜を組み入れ収入アップ！

農産経営科２年
大崎訓亨

我が家では、九戸村で水稲、肉牛繁殖、木炭を主にして経営をしています。現在は、祖父が中心に経営していますが、私が就農することで労働力が増すため、今年からは更に野菜栽培を始め、収入アップを目指していきたいと考えています。また、就農後は経営管理者として簿記記帳が必須になります。今後は、コストや収益計算をしっかり行えるようにさらに勉強して経営確立を目指しますので、よろしくお願いします。

▶海外研修で視野を広げ就農！

農産経営科２年
古里臣教

私は、高校、大学と今まで水稲を専攻して学んできており、水稲に偏った知識だけで直ぐ就農することに少し不安がありました。そのため、私は海外研修で野菜経営を学びながら自分の視野を広げ、営農する上で必要な経営判断力を身に付けたいと思います。また、軽米町の実家では、現在、水稲、畑作が主ですが、将来は規模拡大を目指し新たな作物にもチャレンジしたいと考えています。よろしくお願いします。

▶信頼されるＪＡ職員を目標にして

農産経営科２年
高橋健一

私は、花巻市出身ですがJA新いわてに内定をいただきました。就職するにあたり私には心に決めていることがあります。それは、折れない心を持ち続け、何事にも最後までチャレンジすることです。農業協同組合での仕事は、初めての連続で慣れないことばかりだと思いますが、失敗を恐れず積極的に仕事に取り組みたいと思います。また、私は農家の方々から信頼されるJA職員に一日でも早くなるよう頑張って務めたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

◆支部便り◆

紫波支部

紫波支部・分会の活動計画の紹介

支部長　阿　部　時　男

紫波支部は、紫波町と矢巾町に居住する527名により組織化されております。会員が多いことから、それぞれ分会を組織し、会の目的達成に努めているところです。

支部は、２か年を１事業単位とし、分会はそれぞれ事業年度を定めて活動を展開しており、紫波分会の今年度の活動計画は、次のとおりです。

1　農業大学校等の視察研修
2　新卒者歓迎交流会（地元同窓会の事業や同窓生を知ってもらい、近親感を育成）
3　矢巾町分会役員との交流会（支部と共催）
4　同窓会会報の役員への配布（本部会報・支部会報の発行検討）

今後は、「会員への情報提供」、「同窓生に学ぶ機会と技能のノウハウをつなぐ機会を作る」活動を検討していきたいと考えています。

≪参考≫
紫波支部の会員
（昭和25年度から平成24年度卒まで）589人
うち・紫波分会　426名
（このうち農短卒、新農短卒、農業大卒　153名（36％））
・矢巾分会　163名
（このうち農短卒、新農短卒、農業大卒　78名（48％））

今年度の紫波支部矢巾分会活動の紹介

矢巾町分会（分会長：小笠原安見）は、町内に在住する同窓生164名で組織されており、現校舎がある六原に地で学び、卒業した者（六原農場、六原営農大学校を含む。）は59名であり、他は農業試験場卒62名、農協講習所・旧農業短期大学校卒29名、浄法寺農場等卒14名と校風・校舎を異にしていることから、活動内容は会員の親睦を図ることを主として毎年度総会時に合わせて先進事例研修や懇親会を実施しています。

今年度は、平成25年12月１日に参加者13名で盛岡市三本柳の㈲サン農園を訪問し、社長の藤沢理一氏から「会社の設立経緯と現在の経営状況」をテーマに研修しました。現在、地域では新たな農業施策の受け皿の一つとして集落営農組織の法人化が大きな課題となっている折に、県内の先駆けとして農業生産法人を設立し、土地の確保や資金調達の苦労及び機を先取りした品目の生産と販路対策等々を学び大変有意義な研修となりました。

その後、紫波町内のホテルに移動し、恒例の懇親会を会費制で実施し、和やかな中での会員相互の情報交換など楽しい時間を過ごすことができました。

なお、今年度は会結成10年目となることから会員名簿を精査し、農業大学校関係の情報も添付した名簿を会員全員に配布することとしており、また、会員からは会運営に必要な協力金の拠出をお願いすることとしています。

（矢巾分会　事務局　菅原忠文）

気仙支部

同窓会の現状について

支部長　林　田　　勲

思いがけず気仙支部長に選任されてから早、５年が経過した。就任当初、自分なりに支部活動方針として、①支部同窓会名簿の整備、②支部会則の改正、③定例役員会・総会の開催、④地域農業関係機関との連携の四つを掲げ取り組みました。

同窓会名簿については、大学校事務局により整備されたものが定期的に送られてきて、同窓意識の高揚に貢献していると思っています。支部会則の改正についても実態に即したものに改正することができ、支部の要件を具備することができたと思っています。地域農業関係機関との連携についても、幸いなことに自分がまだその任にあることから、普及センターやJA、地元の大船渡東高等学校との連携はできていると思っている。問題は、定例会議の開催による同窓会事業の共有化がなかなかできないことで、これが一番の課題です。特に、３.11の大震災後の状況は深刻で、正常化にはまだまだ時間がかかりそうです。残念ながらこれが支部の現実です。このような状況ですが、当支部管内にも震災後も懸命に農業現場で頑張っている卒業生や在校生も沢山おりますので、同窓会支部として及ばずながらエールを送っていきたいと思っています。

奥州支部

自然の恵みに感謝

事務局　及　川　良　直

当奥州支部の活動については、特筆するものはありませんが、支部の目的である「会員相互の親睦交流をはかり、地域の産業および文化の向上に寄与し、併せて農業並びに生活の改良に必要な知識技能の啓発に努める」を達成するため、毎年２月から３月に本校の同窓会担当者をお迎えしての総会や交流会の開催、農業大学校主催行事への参加などを行ってきました。

新しい行事を開催してほしい!!との要望があり、山開き直前の５月23日、有志によるれんげつつじの群生地「阿原山の自然散策と山菜の植生調査」行事を実行しました。

当日は、晴天に恵まれ絶好の散策日和の中、最初は、銘水で知られる「金名水」で喉を潤し、山菜調査を開始。参加者は肥料袋いっぱいにわらびやぜんまいを収穫した後、阿原山牧野を両側に眺めながら阿原峠を目指しました。途中には、歴史ある「不動明王神社」を参拝し、身を清め身も心も新しい気分、すがすがしい心で阿原峠に到着、絶景のパノラマの中、宮沢賢治の碑を鑑賞、展望台では周囲の山々の眺望に満足し、すばらしい・楽しい一日を過ごすことができました。

これからも会員みんなが参加できるような行事を企画していければと思っています。

岩手農大OBの紹介

久慈支部　外　舘　則　男

久慈支部ではとりたてて紹介するような活動はないので、久慈地域で就農して頑張っている岩手農大ＯＢを紹介します。

紹介する方は、洋野町大野で、野菜生産に取り組んでいる宇名澤順一さん（35歳）です。訪問した日は、記録的な大雪の翌々日の２月18日で、寒じめほうれん草等を栽培しているビニールハウスが１メートルもある雪のため、何棟かが潰されて、対応にてんやわんやという時でしたが、快く取材を引き受けていただきました。

順一さんは農大卒業後、民間会社や旧ＪＡいわて久慈に勤められ、その後旧大野村農業指導員を経て、平成11年に就農されています。

家族は、父母、祖母、妻、子供３人で、妻の美智子さんは、紫波町出身の農大同級生とのことで、農大ＯＢの同級生夫婦が一緒になって野菜作りに励んでいる様子を見て、同窓の者として力強く感じました。

宇名澤順一さん

現在、農業経営は、父母が露地野菜中心とした系統出荷、順一さん夫婦が露地野菜と施設野菜を組み合わせた産直施設等への出荷と経営分離に近い形態をとっているようで、通年で農産物を出荷し、安定収入を得られる農業経営を目指しているとのことです。

また、順一さんは、久慈管内の若手園芸農業者で組織する「Green Bus（グリーン・バズ）」の代表を設立時から務め、地域の農家と連携を図り、野菜栽培の技術向上等の活動を行っています。

これからも久慈地域の野菜生産の若きリーダーとして、益々活躍されるものと期待しております。

活動報告

平成25年度農業大学校同窓会会長会議研究討議に出席して

同窓会長　及　川　　誠

平成25年７月10日に国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた会長会議の研究討議の概要について報告します。

まず、基調講演として農政における喫緊の課題である新規就農者の育成確保に向けた国の施策を中心に、農林水産省経営局就農・女性課榊浩行課長による講演が行われました。

講演では、①農業の就業人口と農業従事者は、年々減少し高齢化が進展している。就業人口は最近10年間で33%程度の減少。65歳以上が約60%となっている。平均年齢は66歳となっている。基幹的従事者も10年間で22%程度減少している。②新規就農者数は、最近５カ年間で33%減少。うち39歳以下の者も10%程度減少している。③農業関係教育機関としての農業高校、道府県農業大学校、大学・短大、民間教育機関、農業者大学校の卒業者と就農率は、道府県農業大学校が最も多く、次いで農業高校、大学・短大卒業者の順となっており、就農率は道府県農業大学校卒が約50%、民間教育施設が40%、高校・短大は約３%程度となっている。

このような状況で持続的で力強い農業構造を実現するためには、農業従事者90万人必要である。65歳以下の者で農業生産を担うためには、毎年２万人の新規就農者の確保が必要であるとのこと。

このため、新規就農者の増大を目標として、青年就農者の定着支援策としての青年就農給付金、雇用就農の促進のための農の雇用事業等施策を展開しているとのことであった。

この講演に引き続き討議が行われた。

全国農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会で優良賞受賞!

左　受賞者の照井栞奈さん、
右　補助者の多田奈実希さん

平成26年2月18日(火)～20日(木)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された全国農業大学校等プロジェクト発表会に東日本ブロックの代表として、本校農産園芸学科2年の佐々木竜太郎君、安部佳輝君、桜田大地君のグループと畜産学科２年の照井栞奈さんがプロジェクトを発表し、ともに優良賞を受賞しました。

農産園芸学科の佐々木君らのグループは、「次のステージへ向かう農業復興支援－なじょにがすっぺし－」という課題名で、陸前高田市「広田半島営農組合」と「株式会社きのこのSATO」が抱える課題について、先輩たちが実施してきた被災地の農業復興支援の一環として研究した内容について報告したものです。発表会では全国から来た農業大学校生に本県の被災地における岩手農大生ならではの復興支援について発表できる喜びを感じながら、堂々とした態度で立派に終えることができました。発表後の会場から大きな拍手をいただきました。このような機会を得られたことを誇りに思ったそうです。

桜田大地君　佐々木竜太郎君　安部佳輝君

酪農経営科２年の照井栞奈さんは「ラクトコーダーを利用した搾乳作業の改善」について発表しました。農大の搾乳実習の中で、学生によって搾乳刺激（前搾り・ディッピング・拭き取り）の時間に差があることに気づき、搾乳時の流速等を細かく計測できるラクトコーダーを活用し搾乳生理に合った搾乳刺激時間に改善した成果を発表しました。他校で畜産を学ぶ学生からは、「25頭も搾っているなんてすごい。」「自分の学校でもラクトコーダーで細かく調べてみたい。」などの感想をいただき、発表者も満足げであったそうです。

平成25年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告（抜粋）

■開催日：平成25年４月25日(木)
■開催場所：農業大学校本館２階会議室

1. 平成25年度事業計画

本会の目的達成のため、支部活動の促進と会報の発行等により組織活動の強化を図ると共に、農業大学校の教育目標の達成を支援する事業を次のとおり実施する。

(1) 支部活動の促進（支部活動への助成）
(2) 同窓会会員台帳の整備
(3) 同窓会会報の発行：平成26年3月上旬　1,000部
(4) 農業大学校卒業生（直近５年間）交流への支援
(5) 農業大学校事業支援
　ア　農大祭への支援：平成25年10月26日(土)～27日(日)
　イ　農業創造シンポジウムへの支援：平成25年11月15日(金)
　ウ　本科2年生57名の海外農業研修支援
　　平成25年9月2日(月)～9日(月)　アメリカ合衆国カリフォルニア州
　エ　「緑の学園」（オープンキャンパス）事業支援
　　第１期：平成25年6月26日(水)　第２期：平成25年7月29日(月)
(6) 農業大学校同窓会全国連盟及び東日本農業大学校同窓会連盟への参加
　ア　全国連盟総会　　平成25年7月10日(水)　東京都
　イ　東日本連盟総会　平成25年6月6日(木)～7日(金)　福島県
(7) その他
　ア　平成25年度入学式　平成25年4月10日(水)
　イ　平成24年度卒業式　平成26年3月11日(火)
(8) 役員会・総会：平成25年4月25日(木)

同窓会役員名簿（平成25年度～26年度）

役職	氏名	支部	役職	氏名	支部
会長	及川　誠	北上	理事	槻山　隆	一関
副会長	菊地　政男	宮古	理事	林田　勲	気仙
副会長	高崎　覚志	二戸	理事	菊池　長助	遠野
理事	竹鼻　邦夫	盛岡	理事	岩城　明	久慈
理事	田村　忠	岩手	監事	千田　敏夫	北上
理事	阿部　時男	紫波	監事	及川久仁江	奥州
理事	藤原　勝栄	花巻	事務局長	高橋　栄蔵	奥州
理事	千葉　幸一	奥州			

平成26年3月卒業生の進路状況について

今年度の卒業生は本科68名、研究科２名の計70名ですが、進路の内訳は就農８名、進学３名、研修８名、農業法人等16名、農業団体10名、農業関連企業12名、その他13名となっております。

主な進路先は、次のとおりとなっております。

●就　　農：花巻市、遠野市、普代村、軽米町、九戸村等
●進　　学：弘前大学農学生命科学部、本校研究科
●農業法人等：岩崎農産、小岩井農牧、峰岸ファーム、かさい農産、㈲キロサ肉畜センター等
●農 業 団 体：JA新いわて、JA花巻、JA江刺、JAいわて平泉、JA岩手ふるさと
●農業関連企業：㈱岩手農蚕、秋田スカイテック、ヤンマー農機㈱東日本、㈱ヰセキ東北、小泉商事等